

## 新任教員FD研修会報告

鹿児島大学FD委員会では、平成22年7月2日～平成23年7月1日までに本学に採用された新任教員を対象に、2回にわたるワークショップ形式の研修会を開催した。本報告では、その概要および事後アンケートの結果について記載する。

### 1) ワークショップ1

日時:平成23年10月25日(火)15:00～17:15

場所:稲盛アカデミー棟1階 A11 教室

目標:参加者は、終了時に、教育に対する関心を高め、望ましい学生の学習について理解することができる。

- ・本学の学生及び全国の大学生に学習活動、態度の動向を理解し、本学の学生指導で予想される問題点を指摘することができる。

- ・望ましい学生の学び方について議論できる。

プログラム:(進行:田口則宏FD委員)

15:00 開会挨拶(阿部美紀子理事(FD委員会委員長))

15:05 講演「学生の実態を知る」(伊藤奈賀子FD委員)

15:25 グループ討議の説明

15:30 グループ討議

16:45 グループの発表・討議

17:05 まとめ

17:15 アンケート記載、解散

参加者の属性を図1～3に示す。

全参加者数は25名で、ほぼすべての部局から万遍なく参加されていた。職位では、准教授および助教が同数を占めており、両者で全体の8割であった。教育経験は、経験のない方から10年以上のキャリアをお持ちの方まで多様であった。

図1 参加者の所属

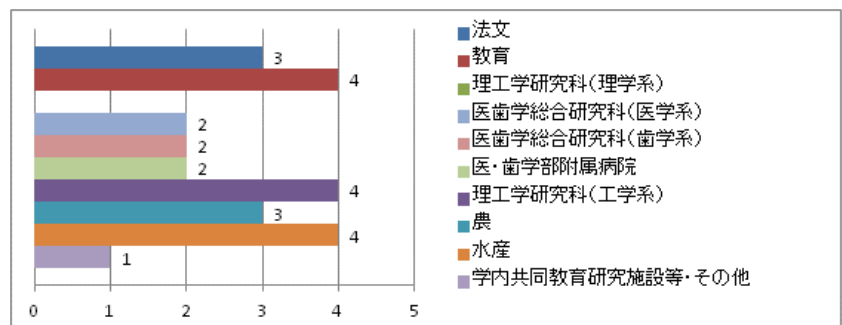


図2 参加者の職位

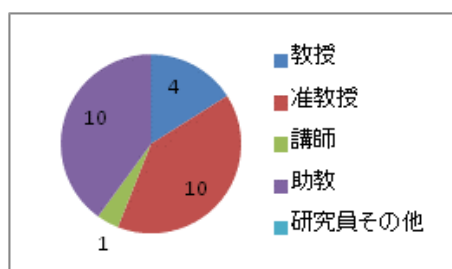
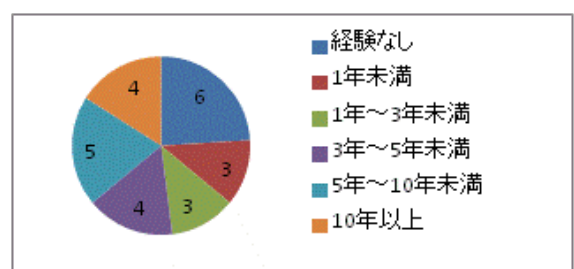


図3 参加者の教育経験



本ワークショップでは、鹿児島大学において教育活動に携わるために、まず対象となる学生の学び方の実態について知ってもらうために、2010年度に本学2年生1544名に対して実施した学習実態・学習成果に関するアンケート結果に基づく講演(伊藤奈賀子FD委員)により開始された。その後、課題1「各教員が経験した学生の学習上の問題」、課題2「学生の望ましい学習態度、習慣とは」の2つの課題について、全体を4つに分けたグループ内で討論をして頂いた。その後、全体討論として、グループ内での討議内容を参加者全員に対して発表していただくとともに、グループ間での討論を行っていただいた。

その結果、課題1については、主に下記の様な問題点が抽出された。

- ・ハングリー精神の欠如
- ・原理原則を学ぼうとせず、結論や結果をすぐに求めたがる
- ・コミュニケーション能力の不足(文章や日本語が書けない、討論ができない、など)
- ・社会やニーズに関心がない
- ・基礎的知識がない

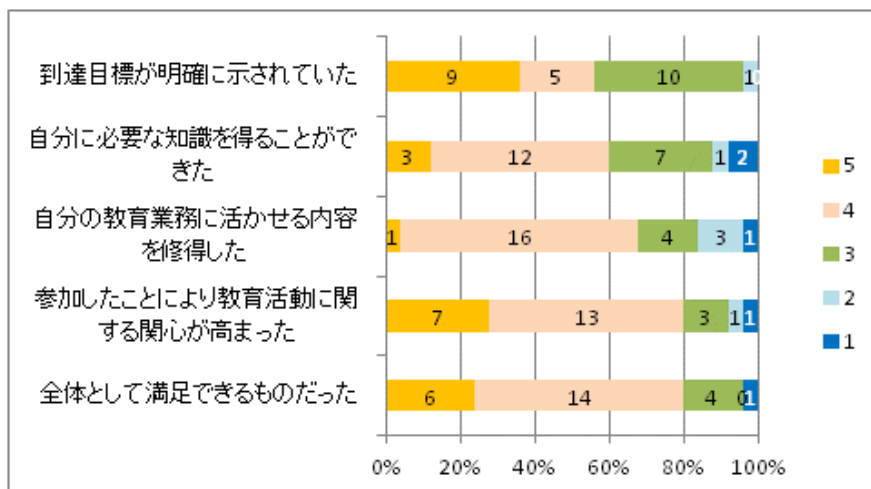
課題2については、主に下記の様な項目が抽出された。

- ・興味を持って能動的に授業に参加する
- ・予習をする
- ・意見を言う
- ・内向きさを解消する
- ・大学が求める学生像を明確にする必要がある

ワークショップ終了時に無記名で記載を依頼したアンケート結果について図4に示す。今回のワークショップでは、レクチャーなどによる知識の伝達は最低限とし、参加者全員が具体的なテーマに対して討論に参加して頂くことにより、参加者間の学生教育に対する問題点や認識の共有を図ることを主目的とした。その結果、いずれの質問項目についても比較的肯定的な見解が示されており、「参加したことにより教育活動に関する関心が高まった」の項目では80%の参加者が肯定していた。

図4 アンケート結果

5: そう思う、4: どちらかといえばそう思う、3: どちらともいえない、2: あまりそう思わない、1: そう思わない



## 2) ワークショップ2

日時:平成 23 年 10 月 27 日(木)15:00~17:15

場所:稲盛アカデミー棟 1 階 A11 教室

目標:参加者は、終了時に、教育に対する関心を高め、望ましい学習指導を計画することができる。

- ・効果的な学習を促し、主体的に学習する学生を育てる教育方法を議論できる
- ・自らの教育場面で学生がより主体的に学習するための改善方法を提案することができる。

プログラム:(進行:田口則宏FD委員)

- 15:00 開会挨拶(阿部美紀子理事(FD委員会委員長))
- 15:05 講演「成人の学び(成人教育学)」(田川まさみFD委員)
- 15:25 グループ討議の説明
- 15:30 グループ討議
- 16:45 グループの発表・討議
- 17:05 まとめ
- 17:15 アンケート記載、解散

図5 参加者の所属

参加者の属性を図5~7に示す。全参加者数は 21 名で、部局によって参加者のばらつきが認められた。職位では、半数以上が准教授であった。教育経験は、経験のない方から 10 年以上のキャリアをお持ちの方まで多様であった。特に5年以上のキャリアを有する方が半数以上を占めていた。

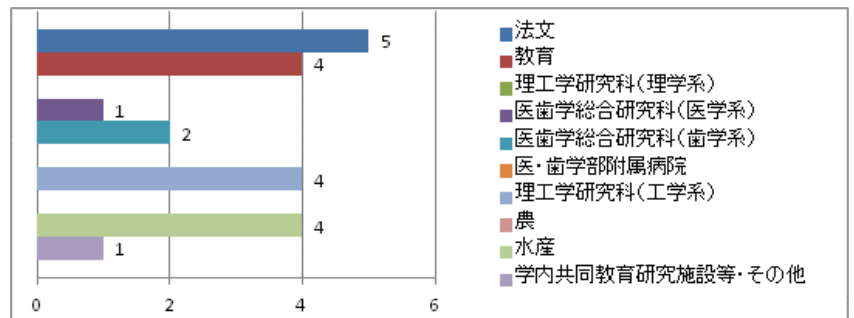


図6参加者の職位

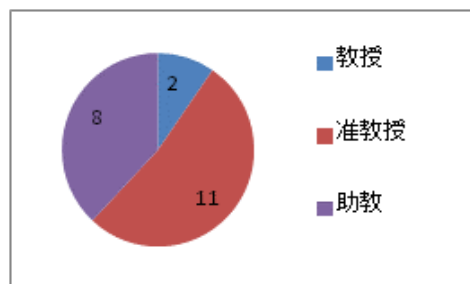
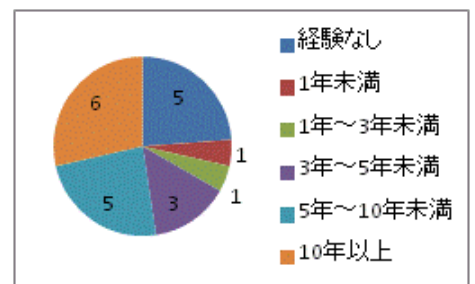


図7 参加者の教育経験



本ワークショップでは、ワークショップ1の内容の続編として、今後鹿児島大学において教育活動に携わるために、どのような理念で教育を行っていくべきか、について考えてもらうために、その基盤となる「成人の学び方(成人教育学)」に関する講演(田川まさみFD委員)により開始された。その後、課題1「各教員が経験した指導方法による学生の学びの変化」、課題2「望ましい教員の態度、教育方法とは」の2つの課題について、全体を4つに分けたグループ内で討論をして頂き、グループ内での討議内容を参加者全員に対して発表していただくとともに、グループ間での討論を行っていただいた。

その結果、課題1については、主に下記の様な項目が抽出された。

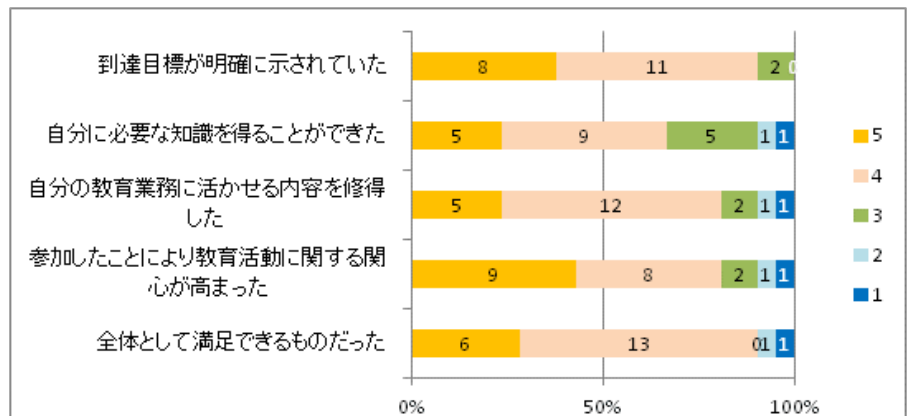
- ・最初に考えさせ、その後情報を与えると、達成感を与えやすい

- ・実習、実験等で「体験」させることで実社会での応用などのイメージがわく
  - ・興味を持たせるようにする
  - ・目に見える形でのゴールや見通しを持たせると態度が変わる
  - ・キャリア意識を持たせると意識が高まる
  - ・教え方にもアクセントが必要
  - ・大人数の授業でもコメントシートに丁寧に回答すると、学生自身との距離が縮まる
  - ・不真面目な学生に対して厳しく指導すると効果的
  - ・教育学部では「教育実習」の前後で大きく変わる
- 課題2については、主に下記の様な項目が抽出された。
- ・学生に考えさせ、それを導く教師
  - ・自力で問題を解決に導くような教員が理想
  - ・教員が教育・指導に対する明確なビジョンを持つことが重要
  - ・(学生との間に)一定の距離感を保って親身に接する
  - ・答えが無い課題を考えさせる
  - ・共に歩む
  - ・将来の働く場、危機意識を見せる

アンケート結果について図8に示す。いずれの質問項目についても比較的肯定的な見解が示されており、「そう思う」と回答した割合はワークショップ1の結果に比較して増加している傾向であった。一方、2回のワークショップを通じて、いずれの項目についても否定的な見解を持っている参加者いるということも認識しておく必要があると考えられる。

図8 アンケート結果

5: そう思う、4: どちらかといえばそう思う、3: どちらともいえない、2: あまりそう思わない、1: そう思わない



### 3) まとめ

以上、2回にわたる研修会を開催した結果、今後の課題として下記の2点が挙げられた。

- ① ワークショップを2回行うのであれば、下記のように内容を異なるものにしてはどうか。
  - ・異なる専門領域の教員との交流(意見交換することを目的とし、気付き、刺激を受けあう)
  - ・研修内容のテーマ別とする(「授業のスキルアップ」、「専門職育成」など)
- ② いかに参加者を増やすか、参加を促す工夫をFD委員会で議論する。